北信教育事務所だより

～子どもに発し、子どもに還る　学校づくり・授業づくり～

令和6年 11 月 21 日　第5号

「第2回研究主任研修会」 9月 20 日(金)実施

「子どもを主語にした学び」に向けて語り合う
&「『探究』を中核とした学びの推進」の具体を捉える！

117 名参加

学びの改革パイオニア校
佐久市立岩村田小学校
松本市立丸ノ内中学校
の実践から学ぶ！

○研修１　グループセッション

参加者が関心をもつテーマごとに分かれて、各自持ち寄った実践を基に自校の授業研究について熱く語り合いました。

学校を取り巻く環境などに違いはあっても、「探究的な学び」の実現に向けてアプローチしていることには変わりありません。他校の先生方との意見交換は学びであり、共感であり、よい時間を過ごせて、うれしかったです。(参加された先生の声)

○研修２　リレートーク

学びの改革パイオニア校と北信管内の６名の研究主任や研究推進担当者が、自校の「探究する授業」の取組を具体的に語りました。

小学校リレートーク（岩村田小学校）

ポイント

- 探究は「生活・総合における探究」と「教科における探究」の両輪が大切
- 子どもも教師も学びの自走者になっていく

探究的な学びについて、教科と総合・生活の違いについて具体的に示していただき、今後の取組の参考になりました。(参加された先生の声)

中学校リレートーク（丸ノ内中学校）

ポイント

- 生徒も教師も「問う」「つなぐ」「伝える」を合言葉に探究的な学習の過程を捉える
- 生徒の「半歩先」をみる教師の模擬探究

総合的な学習の時間を中核に据えたカリキュラム・マネジメントの大切さを学びました。自校で生かしたいです。(参加された先生の声)

第２回研究主任研修会では、授業研究について日々の実践を持ち寄って語り合うことや、リレートークの対話を聞くことで、年度後半に取り組みたいことが明確になり、研究推進の一歩となりました。

第３回研究主任研修会は 12 月 17 日（火）に長野合同庁舎 501～503 号会議室にて開催します。内容は、研修１「ポスターセッション」にて発表者の校内研究の歩みを聞き、ディスカッションをします。研修２「グループワーク」にて自校の研究を振り返り、次年度につながる研究のまとめのあり方を具体的に見い出していきます。

令和６年度教育課程研究協議会 授業公開校の実践から

令和６年度教育課程研究協議会が、10 月に各地区で行われました。会場校では、教科等の本質に迫る学び、子どもの視点に立った授業づくりをキーワードに、資質・能力の育成に向けた授業が公開されました。子どもの学びの姿と学びを支える教師の関わりや工夫を紹介します。

中野市立豊田小学校　髙山 紗緒里　先生　３学年
特別支援教育（総合的な学習の時間）　「年長さんを、豊田小秋祭りに招待しよう！」

単元終末で出会いたい子どもの姿（資質・能力が育まれた姿）
年長さんへの思いやりを深め、自分なりのよりよい関わり方を考える姿

＜本単元における子どもたちの「問い」や「願い」＞
「年長さんと一緒に楽しんだり、話したりして、仲良くなるにはどうしたらいいだろう？」

＜本時の子どもの姿＞
Ａさんは、友達に「トッピングもつけたい」と伝えながら本物のクレープに近づけられるよう、工夫して作製し続けていました。また、作ったクレープを友達に見せ、「どう？」と聞き、褒めてもらったことで嬉しそうに笑みを浮かべていました。

＜子どもの学びを支える教師の関わり＞
Ａさんのクレープを見て、「かわいいね」と認める先生。「みんなに見てもらおう」という声がけでＡさんは友達と関わります。また、子どもと共に年長さんが喜ぶことを考える先生の姿がＡさんに安心感を与えていました。

＜この実践のポイント＞
繰り返し年長児に関わり、保育園の先生にもインタビューしたことが、Ａさんの年長児を喜ばせたいという思いにつながり、活動を続けることができました。また、交流及び共同学習として、特別支援学級入級児童の力が発揮されるように、特別支援学級と原級それぞれのねらいを明確にした上で支援を考えていました。

豊田小秋祭りの様子

千曲市立埴生小学校　春口 佳穂 先生　４学年 国語科 「工芸品のみりょくを伝えよう」

単元終末で出会いたい子どもの姿（資質・能力が育まれた姿）
リーフレットを作成する過程で、学習の見通しをもって、自分の考えと
それを支える理由や事例との関係を明確にして、粘り強く書き表し方を工夫する姿

＜本単元における子どもたちの「問い」や「願い」 ＞
「自分が選んだ工芸品の魅力をリーフレットにまとめてたくさんの人に伝えたい！」

＜本時の子どもの姿＞
本時、「書く」を中心に取り組むことに決めたＡさん。友と関わる中で、より内容が伝わりやすくなるように、事例を調べ直したり構成を考えたり、見通しをもって粘り強く書き表し方を工夫する姿が見られました。

＜子どもの学びを支える教師の関わり＞
リーフレットの作成過程を「調べる」「比べる」「考える」「書く」と４段階に整理し、児童が本時のめあてを設定しやすくしていました。また、個別に展開される学びを、状況に応じてつなげながら協働的な学びを促進していました。

＜この実践のポイント＞
単元のゴールを共有し、学習過程を数時間のまとまりで設定したことで、子どもが主体的に学習に取り組み、教師がそれぞれの児童の進捗を確かめながら個に応じた指導を行っていました。

長野市立篠ノ井東中学校　美齊津　択斗　先生　　２学年　理科　「電流・電圧と抵抗」

単元終末で出会いたい子どもの姿（資質・能力が育まれた姿）
電流、電圧、電気抵抗の概念を獲得し、日常生活と関連付けて捉えている姿

＜本単元における子どもたちの「問い」や「願い」　＞
「電球の種類によって明るさが異なるのは、何が原因なのだろう？」

＜本時の子どもの姿＞
同じ乾電池につないでいるのに明るさが異なる２種類の電球に出会い、その原因を個々の予想に沿って追究しました。納得するまで繰り返し実験したり、予想とは異なる原因まで探ったりするなど試行錯誤する姿がありました。

＜子どもの学びを支える教師の関わり＞
- ２種類の電球を並べて点灯させることで、授業のねらいと生徒が抱く問いが一致する導入になりました。
- 生徒がつまずいているように見えた時、困り感は共有しつつも、既習事項の活用や友との関わりを促しながら、じっくり見守っていました。

＜この実践のポイント＞
「個々の予想に沿った個別最適な学びの実現」「試行錯誤できる場の設定」「子どもに学びを委ねたこと」により、協働的な学びが自然に立ち現れ、学びを広げ深めていく姿につながっていました。

須坂市立相森中学校　倉島 花奈 先生　ミランダ・ガーニー 先生
２学年　英語科　「Things to Do in Japan」

単元終末で出会いたい子どもの姿（資質・能力が育まれた姿）
日本各地を旅行したいＡＬＴの先生に、おすすめの旅行場所について、
自分の考え等を整理しながら伝えたり、相手からの質問に答えたりする姿

＜本単元における子どもたちの「問い」や「願い」　＞
「次の旅行先を考えているＡＬＴの先生の希望や興味に合ったおすすめの場所を紹介したい！」

＜本時の子どもの姿＞
Ａさんは、おやきの魅力を伝える発表を考え、友とやり取りをしました。その中で、おやきの種類を詳しく伝えたり、お薦めの味や自分の感想を加えたりするとよいことに気付き、表現を練り直して、紹介の最後に発話を付け足す姿がありました。

＜子どもの学びを支える教師の関わり＞
倉島先生の「生徒のよさを見つけ、クラスに広げる」姿勢が表れていました。Ｂさんの「話の組み立ての工夫」をクラス全体に紹介し、「何を、どの順で話すとよいか」、一人一人が改めて考え、判断していく姿に繋げました。

＜この実践のポイント＞
- 具体的なコミュニケーションの目的、場面、状況等を明確に設定したこと
- 子どもの学びのよさをクラス全体で「共有」し、「気付き」を促したこと
- 「考えの整理」「相手の話を聞いた上でのやり取り」を意識的に指導したこと

皆さんが参加された会場校においても、「その教科等で育む資質・能力は何か」「そのために、どのような教師の関わりや工夫ができるか」等を議論の土台に据え、子どもの学びの姿を通して、会場校の取組のよさや、ご自分の授業づくりや支援を振り返る機会になったことと思います。

また、一人一人の特徴やよさを生かす工夫や環境を整えたり、友と考えを交流する場面を設けたりする等の授業者の取組からも、大きな学びを得ることができました。ぜひ、参観した授業から得た学びを、ご自分の授業の「次の一歩」につなげていきましょう。